

番号	都道府県	学校名	学年	氏名	性別	発表テーマ
1	北海道	稚内市立稚内南中学校	2年	熊谷 七海	女	素直に向き合うことの大切さ
2	青森県	むつ市立大畑中学校	3年	石戸谷 優菜	女	本当の平和を望むなら
3	宮城県	多賀城市立第二中学校	3年	三浦 茜	女	二つの「大丈夫」
4	秋田県	湯沢市立皆瀬中学校	3年	伊藤 直人	男	小安ごけし
5	福島県	会津若松市立河東中学校	3年	巻 幸星	男	これからの社会に求めるもの
6	茨城県	筑西市立下館中学校	3年	上野 翔太郎	男	父の思いを胸に...
7	群馬県	群馬大学教育学部附属中学校	3年	尾高 南結	女	最期まで自分らしく生き抜くために
8	埼玉県	八潮市立八幡中学校	1年	藤波 彩夏	女	何気なく過ごした今日
9	千葉県	流山市立東梁井中学校	3年	田中 菜子	女	祖父から学んだ大きな宝
10	神奈川県	洗足学園中学校	2年	矢嶋 花菜	女	情報を発する責任、得る責任
11	新潟県	三条市立第二中学校	3年	篠田 果鈴	女	日本の魅力を世界へ
12	山梨県	甲州市立塩山中学校	3年	風間 悠花	女	誇りをもって
13	静岡県	御前崎市牧之原市学校組合立御前崎中学校	3年	河守 佑夏	女	あの日の会議室で
14	富山県	高岡市立高陵中学校	3年	釣谷 亜未	女	受け継ごう、日本人の心
15	石川県	七尾市立七尾東部中学校	3年	左藤 寿久理	女	青年よ、自由という名のもとに責任を持って
16	愛知県	西尾市立鶴城中学校	3年	若杉 亜以	女	自分を乗り越えて
17	三重県	東員町立東員第二中学校	2年	出口 緑彩	女	「自分なんて...」と思わないで
18	岐阜県	恵那市立恵那西中学校	3年	西尾 ひより	女	何気ない言葉をかけること、力
19	大阪府	清風南海中学校	3年	小林 留奈	女	「解る」と「感じる」
20	兵庫県	西宮市立学文中学校	2年	高岡 里帆	女	人の支え
21	奈良県	智辯学園奈良カレッジ中学部	2年	行広 奏凜	女	なりたい自分
22	和歌山県	和歌山県立日高高等学校附属中学校	3年	望月 春菜	女	夢へつながる虹の架け橋
23	鳥取県	岩美町立岩美中学校	3年	田中 悠	女	本当の気持ちと本当の仲間 『ボクのおとうさんは、桃太郎というやつに殺されました』から学ぶこと
24	岡山県	岡山県立倉敷天城中学校	2年	赤堀 由季	女	僕の大切な妹
25	広島県	廿日市市立吉和中学校	3年	栗栖 知生	男	気持ちを受け取る
26	山口県	周南市立熊毛中学校	3年	鬼武 亮輔	男	人形浄瑠璃を受け継ぐ
27	徳島県	勝浦町立勝浦中学校	2年	桃本 和佳	女	主役じゃなくいい
28	香川県	香川大学教育学部附属坂出中学校	3年	白川 享佑	男	「やってみたい」を「やってみよう」に
29	愛媛県	新居浜市立大生院中学校	3年	加藤 ひかり	女	私の中のルビンのつぼー視点を交える
30	佐賀県	東明館中学校	3年	石丸 星美	女	つながる喜びを
31	長崎県	諫早市立真城中学校	3年	阿比留 日向	女	道
32	熊本県	宇城市立不知火中学校	3年	上野 優磨	女	何かを探して
33	大分県	臼杵市立北中学校	3年	兒玉 珠希	女	みんなで住む町
34	宮崎県	五ヶ瀬町立鞍岡中学校	3年	佐藤 花南	女	
35	鹿児島県	鹿児島大学教育学部附属中学校	2年	満永 桃子	女	「自律」と「自立」

1979年の国際児童年を記念して始まった「少年の主張全国大会」
今年で36回目を迎えます

全国56万人の参加者から選り抜かれた12名の中学生が
日頃抱いている思いや考えを発表します
中学生の鋭い感性と素直な思いから生まれる“主張”を
まっすくにお届けいたします

第36回 少年の主張全国大会

～わたしの主張 2014～

今、伝えたい！ 中学生の明日への想い

平成26年 11月9日(日) 13:00～
国立オリンピック記念青少年総合センター

当日、会場で発表を
お聴きいただいた方の中から
抽選で25名の方に
大会審査委員長
松本壽士先生よりクイズを
プレゼントいたします。

主催／国立青少年教育振興機構
協力／都道府県公益社団法人日本PTA全国協議会、青少年育成都道府県協議会、全日本中学校長会、日本私立中学高等学校連合会、東京都立中学校PTA協議会
後援／内閣府、文部科学省、東京都教育委員会、NHK、日本民間放送連盟、日本新聞協会、全国社会福祉協議会

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

内閣府子ども・若者育成支援
強調月間(11月)関連事業



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構



学ねおき
朝ごはん

13:00 開会

13:20 主張発表

(12名の中学生が“わたしの主張”を発表します)

15:20 審査発表及び表彰式

(内閣総理大臣賞を含む3賞を発表します)

16:00 閉会

発表者(発表順)

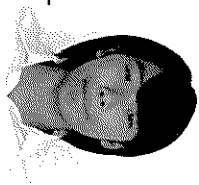
少子高齢化、国際化、情報化の急速な進展等、わが国の社会や国際的な環境が大きく変化する現代社会において、次代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心をもち、社会的に自立している、健やかな成長が求められています。そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらう力などを身に付けることが大切です。これらの契機となることを願い、また、過去35回の実績を踏まえ、「少年の主張全国大会」を実施します。

- 審査委員長 松本 零士 (財)日本宇宙少年団理事長
○審査委員 泉 潤一 文部科学省エポーツ・青少年局 青少年課長
内村 繪笑 第32回少年の主張全国大会 内閣総理大臣賞受賞者
加藤 弘樹 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付 参事官(青少年企画担当)
柴原 靖 国立青少年教育振興機構 理事
塩田 益明 金沢市立中学校長 生徒指導部長

1 滋賀県代表

新谷 愛

東近江市立玉園中学校 3年



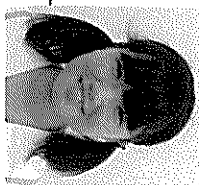
伝えたい気持ち

(発表内容の主旨) 父はろうあ者で全く耳が聞こえず、母は進行性の難聴を患っている。中学生になった今、母はほとんど聞こえなくなり、言葉でうまく伝えられなくなっていくもどかしさから、母とけんか、そんな時、「周りの人が話してくれなくなることが悲しい」との母の言葉を思い出し、自分の誤りに気付く。母に謝ると母はわたしを抱きしめてくれ、心と心が通じ合えた。

2 福井県代表

戸川 琴乃

敦賀市立粟野中学校 2年



「自分」を信じる

(発表内容の主旨) 真面目すぎる私は、ルールを守らなかつたり、進んで嫌なことをしない周りの人達をうらやましく思ったり、逆にイライラしたりして、真面目な自分の性格に自己嫌悪を抱いていた。そんな時、出会った一つの短歌と部活動での先輩の言葉によって、気持ちに変化が生まれ、真面目な性格に自信を持つことができるようになった。

3 京都府代表

前川 瑠里

京都府立路北高等学校附属中学校 3年



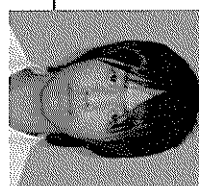
温かい手を握るため

(発表内容の主旨) 駅で階段を上がろうとしていたおばあさん。両手が荷物でふさがり、すりを持ってすくっていたが、誰も助けず、私が手助けすることになった。私たちは高齢者を助けることをバリアフリーという設備に任せきりではないか。真の老人福祉は、私たち一人一人が困っている高齢者に手を差し伸べることだと思う。

4 島根県代表

河野 鉄太

吉賀町立柿木中学校 3年



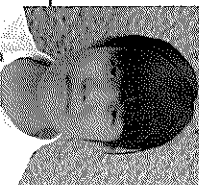
鬼退治

(発表内容の主旨) 生活が乱れ、自暴自棄になっていた頃、学校で問題を起こし、父が学校に呼びだされた。学校から戻った父が流した涙、その想いを理解し反省。その後、神社社中の東京公演で、自分の舞いで歌声が上がリ、今までの人生の中で、無関係だと思っていた自信と誇りを持つことができ、心の中に任み懸けていた感情という鬼を父の涙、周囲の期待、そして誇りで退治することができた。

5 高知県代表

林 萌桃

中土佐町立久礼中学校 2年



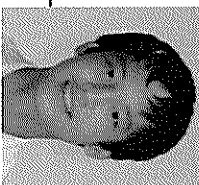
いのちの花・咲いて

(発表内容の主旨) 小学二年生の時に同級生が白血病を患い、私たちは白血病について調べ、また、白血病を患った同級生と一緒に給食を食べたり、昆虫採集などをして過ごした。だが、その同級生は、体調の悪化が進み、入院生活を余儀なくされた。そして、季節が変わり、同級生が亡くなったとの連絡があった。その同級生が好きだったひまわりの種を学校の花壇に蒔いたところ奇跡が起り、冬にひまわりが咲いた。中学生になった私は、生きるとはどういうことなのか、改めて考え直している。

6 沖縄県代表

高橋 天洋

那覇市立那覇中学校 2年



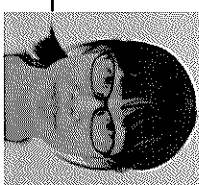
「中国人」という名の偏見

(発表内容の主旨) 私は日本生まれ、両親は中国出身で、私は日中両国の小学校に通った。中国で見た抗日ドラマは日本を過剰に悪く表現するものであった。また、日本でも、中国に対する勝手な思い込みからくる偏見も少なくない。そういう偏見により、お互いを傷つけることはとても悲しいこと。世の中でのイメージにとらわれず、実際に関わって物事を判断することが大切だと思う。

7 福岡県代表

山本 由菜

飯塚市立飯塚第一中学校 3年



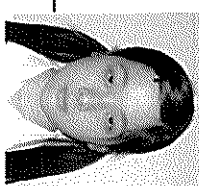
子は宝～自分の命より大切なもの

(発表内容の主旨) 母は白血病にかかり、昨年四十四歳で亡くなった。母の日記には、私たちのことを思っていて、病室と闘っていることか、つらかった。今は、母の愛情を忘れずに家族で力を合わせ、母の分まで頑張っている。親は一番近くで見守ってくれればかえりない存在なのだ。母の日記の最後の方にこんな言葉が残されていた。「子供は宝で自分の命より大切なものだから」

8 山形県代表

菅原 すみれ

酒田市立第六中学校 3年



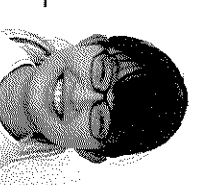
唄い継ぐ想い

(発表内容の主旨) 酒田の素晴らしい唄を伝えようという修学旅行先の東京で声を掛けられたおじいさんから、「最上川舟唄」を教わった。東京という地元から遠く離れた地で、郷土の懐かしさを教えてもらった。その独特の歌詞や曲調に惹かれ、秋に近所の敬老会で「最上川舟唄」を発表しようと思った。地域の方々と一緒に唄い、語り、言葉を重ねていくことが郷土の歴史を後世に伝えていくことだと思ふ。

9 岩手県代表

渡邊 美卯

岩手大学教育学部附属中学校 3年



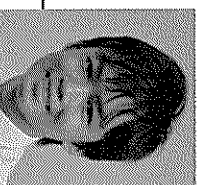
一言の重さ

(発表内容の主旨) 吹奏楽部のコンクールが第2次大戦をテーマとしていたのをきっかけに、戦争について調べた。その中で、戦時中、派遣先のタイから、自分の子どもに宛てた一通の手紙を読んだ。「また、お便りします」。検閲の下で、子どもへの思いが詰まった言葉はとても切なくなつた。現代は様々なツールで簡単に言葉を交わすことができる。だが、それは、言葉だけの繋がりだけで、本当の言葉とは自分の思いと相手の心をつなぐものであると思う。

10 栃木県代表

カリニヨ カーロ マリオン

栃木市立栃木西中学校 3年



夢の種

(発表内容の主旨) 両親の故障であるフリップで高熱になった。その病院での体験から、世界の医療事情について興味を持ち、自分が思う当たり前が、発展途上の国では、全く違うことを知った。そして、このことから医者になりたいと考えようになった。まだ未熟であるが、自分が努力をすることで、救える命があると思う、世界の医療格差をなくしたい。

11 東京都代表

小林 晴日

立川市立立川第六中学校 3年



助け合いにつながる言葉

(発表内容の主旨) 小学校の時、山で登山者同士のあいさつには安全確認の役割があると祖父が教えてくれた。中学生になり、日常のあいさつが恥ずかしくて、思いうろまにできなくなつた時、弟の言葉で、日常のあいさつも山でのあいさつと同じように助け合いにつながると思ふようになった。気持ちのいいあいさつで、心と心が繋びつき助け合える社会になるのではないかな。

12 長野県代表

宮澤 紀伊

長野市立西部中学校 3年



遠くの隣人

(発表内容の主旨) インターネットの電話サービスを利用して、トルコの中学生たちとコミュニケーションを取ることができ、ネットの便利さを痛感した。しかし、便利と思えるネットだが、最近、SNSを利用したトラブルが起きている。顔の見えない相手とのコミュニケーション方法が問題ではないか。ネットの便利さに慣れて、大切なものを見失わないよう相手の顔を見て心が通じる生のコミュニケーションを大事にしたい。